

「ネル」に担当者が出演し宣伝をおこなった。閲覧数630回（9月6日現在）。文系分野への宣伝効果が期待される。

10. 若手活動運営委員会（桑野理事）

- ・学生・若手の交流会：熊本大会会期前日9月13日（土）に、多目的交流施設で学生・若手の交流会を実施予定。自己紹介やフリートーク等を予定し、参加しやすいよう途中参加・退出も可能。
- ・若手巡査：10月18日（土）に長瀬・皆野地域でバスによる日帰り巡査を予定。講師は、早稲田大学永治方敬准教授、田口知樹准教授、35歳以下の学生および若手研究者を対象。学生参加費の半額を学会補助とする。
- ・地質系オンライン交流会：12月開催予定。学生や若手研究者が業界若手職員との交流を図る場として、座談会や懇親会などを企画している。引き続きご協力をお願いしたい。

11. その他（岩井理事）

地震火山地質こどもサマースクールを8月に御嶽山（長野県）で開催した。詳しい報告は次回理事会で行う。来年度は気仙沼、その次は金沢で地震に関係した企画を検討中。2028年度以降の候補地は未定なので関係者にはご協力をお願いしたい。

審議事項

1. 選挙管理委員会の設置について（亀高常務理事）

2026年度代議員および理事選挙・監事選挙の選挙管理委員会として、執行理事会よりメンバー5名の推薦があり、承認された（委員長：白井正明、委員：荒井健一、牛丸健太郎、栗原敏之、郡山鈴夏）。選挙概要やスケジュール等を確認し、前回同様、基本的にはWEB投票を行うが郵送投票も可能。郵送希望者は事務局へ要連絡。現代議員には引き続き立候補を期待するが、周囲への周知が呼びかけられた。またあわせて会長、副会長候補者の意向調査も行う。前回は投票率が低かった。今回はぜひ周知徹底し、投票率を高めたい。

2. 2026金沢大会巡査コース案（山口理事）

8コース（ポスト巡査5件、プレ巡査3件）を予定。うち2件は能登半島地震関係である。巡査コース案について、賛成多数で承認された。

3. 「地質系若者のためのキャリアビジョン誌」の活用拡大策（案）（坂口理事）

2024年版は地質系企業131社を掲載し、2500冊を48大学に配布した。掲載社数は年々増加しており、企業ニーズが高まっている。また大学でのキャリア教育への貢献など本誌には幅広い波及効果が期待される。今後学部全体や高校生・保護者など配布先拡大を図るために、掲載料の値上げと一定数（50部）以上の配布についての有料化（1冊あたり100円）が提案された。賛成多数で承認された。

監事コメント

（山本監事）今年は選挙が予定されている。選挙システムがやや複雑であるが、前回よりも高い投票率となるよう留意し、選挙を進めていただきたい。

（岩部監事）今年は選挙の年であり、より多くの立候補をお願いしたい。投票率増加にむけて広報等もしっかりとお願いしたい。キャリアビジョン誌は、地質系学生が進路を前向きに考える際に大変役に立つ。地質系の教育の先に専門職があることを知ってもらえるよう、大学だけでなく高校生も含め配布を行うことが重要である。今後も積極的に配布拡大を検討してほしい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長および出席監事、理事は次に記名・捺印する。

2025年10月16日

一般社団法人日本地質学会

理事：議長 野田 篤

理事：副議長 田村嘉之

代表理事：会長 山路 敦

理事：副会長 杉田律子

理事：副会長 星 博幸

監事：山本正司

監事：岩部良子

理事：出席理事名（省略）

2025年度第3回執行理事会議事録

日程：2025年9月6日（土）10:00-12:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高 正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

欠席：大坪 誠、高嶋礼詩

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事00名の出席

*前回25-02議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

1. 全体の報告

・山田科学振興財団2025年度研究援助選考結果について、地質学会から1名の会員を推薦したが、不採択となった。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・発注者・若手技術者が知っておきたい『地質調査実施要領』解説講習会（主催：経済調査会、11/12大阪、11/18東京開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・観察会：宅地開発で隠れた衣笠断層帯を歩く（主催：三浦半島活断層調査会、12/6開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・深田地質研究所より役員変更の連絡があった。（新理事長：松田博貴氏）

・共催、協賛、後援等の定義について、2020年12月理事会で定めた分類を踏まえて再確認し、それらの違いを外部にも分かるようHP等で公開する予定。

<会員>

1. 今月の入会者：正会員3名（一般1、学生2）
正会員一般：石橋真那美

正会員学生（2年パック（1名）、3年パック（1名）：加藤三咲、金丸花凜

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：なし

4. 2025年8月末会員数

賛助：40、名誉：33、ジュニア会員：7、正会員：3141〔一般1974、シニア886、学生会員281〕 合計 3221（昨年比-4）

5. 前回（4/19）理事会以降の逝去者氏名（6名）

名誉会員（1）植村 武（逝去日：2025年5月14日）

正会員シニア（5）古沢 仁（逝去日：2023年9月2日）、井上 茂（逝去日：2024年8月7日）、有川隆一（逝去日：2025年4月14日）、大橋俊夫（逝去日：2025年4月26日）、後藤博弥（逝去日：2025年5月15日）

<会計>

特になし

<その他>

・休会制度の新設について（→審議事項へ）

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口・内尾）

・ホームページリニューアル進捗状況：遅れているが、今年度内の完成に向け作業を急いでいる。

・熊本大会プレスリリースを行う

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2025熊本大会：

→講演申込519件（口頭243、ポスター276、※ジュニアセッション27件を含む）（昨年の山形大会は520）。懇親会申込187（うち学生52）。

→学生優秀発表賞のエントリーは143件。現状、審査員数が2名以下の発表も幾つかあるので、積極的な審査委員登録をお願いしたい。

→巡査は9コース中8コースが催行予定（巡査案内書も8コースが受理済み）。8月に熊本県内で発生した豪雨により、巡査ルートに一部変更が生じ、当該コースの参加者予定者にはその旨を案内者から連絡済。また、すべての参加予定者に、安全のしおりを事前に送付した。

・2026金沢大会：会期は2026年9月13日（日）～15日（火）、会場：金沢大学。地質情報展及び市民講演会は、未実施地域で開催し

たいという産総研の方針から福井市内で開催予定。
・2027つくば大会：会期は2027年9月5日（日）～7日（火）、会場：つくば国際会議場。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）
特になし

3) 国際交流委員会（辻森）
特になし

4) 地質標準化委員会（内野）
特になし

5) 学術戦略WG（尾上）
特になし

6) ショートコースWG（山口）
特になし

5. 編集出版部会（小宮・辻森）
1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）
・編集状況報告（2025年9月4日現在）
2025年投稿論文：33（昨年比-6）【内訳】総説1（和文1）、論説18（和文16、英文2）、報告2（和文2）、レター2（和文2）、ノート2（和文2）、フォト1（和文1）、巡検案内書7
査読中24、受理済み6、入稿・校正中8、公開22
・今後、次期編集委員長の選定は執行理事会内で行うことを検討していく。
・将来的にカテゴリや投稿規定の見直しも必要との意見あり。

2) Island Arc編集委員会（辻森）
・今年度の公表数が現時点で32編と昨年度より多いペース。

3) 企画出版委員会（小宮）
・「大地と人の物語－地質学でよみとく日本の伝承」が6月に刊行済。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）
1) 地学教育委員会（岩井）
特になし

2) 地質技術者教育委員会（加藤）
・地質系業界説明会には40の団体が出席、現状で16名の学生が事前参加登録。まだ少ないので、学生への宣伝をお願いしたい。

・地球・資源分野JABEE委員会より情報交換会（11/27開催）開催案内

3) 生涯教育委員会（矢部）
特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）
・今年度の御嶽山は無事終了した。長野県のNHKでも報道された。

5) 地質の日（矢部）
特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織
1) 利益相反マネジメント委員会（亀高）
特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）
特になし

3) 表彰制度検討WG（亀高）
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会
1) ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）
・「地球わくわく未来ガイド」への広告掲載案内があり、例年同様掲載の予定。（協賛団体掲載料無料）

3) 支部長連絡会議（杉田）
・シニア会員活躍の推進、学術大会の運営費削減及び計画への行事委員会の関与、Teamsストレージの活用、役員選挙などについて、熊本大会で情報共有・意見交換する。

4) 地質災害委員会（松田）
特になし

5) 名誉会員推薦委員会（星）
特になし

6) 各賞選考委員会（亀高）
・次期選考委員長がまだ決定していないので、第1回理事会後に関係者で集まり協議する。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）
特になし

8) 法務委員会（亀高）
特になし

9) 若手活動運営委員会（星）
特になし

9. 研究委員会
1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）
特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし

審議事項

1. 休会制度の新設について（総務委員会）
産休・育休などで一時期学会活動を休止する会員のために、休会制度（休会中の会費は免除）の導入を検討していく。休会期間の単位、複数年パック会費の学生会員の扱い、運営規則の変更、新会員システムへの対応など、今後詳細を詰めてゆく。制度設計には事務局の負担を極力増やさないように考慮する。
2. 理事会審議事項、資料の確認

監事コメント

（山本監事）休会制度は、退会の防止につながるので、ぜひ前向きに進めて欲しい。
(岩部監事) 出産・育児を機に退会する女性は一定数存在するので、休会制度設立の検討は進めてもらいたい。費用の高騰が続いている学術大会について、今後学会本部も積極的に運営に関わって行って欲しい。

以上

2025年10月15日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男

2025年度第4回執行理事会議事録

日程：2025年10月15日（水）18:30-20:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高 正男、内野隆之、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口 飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

欠席：岩井雅夫

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

*前回25-03議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

1. 全体的報告

・9/21付で2026年度代議員選挙および役員選挙の告示を行った。10/22～11/19に代議員立候補届けおよび正・副会長への立候補意思表明の受付を行う。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・第63回アイソトープ・放射線研究発表会（26/7/8-7/10）への参画依頼があり、後援で承諾した。

・蒲郡市生命の海科学館「第16回 地球惑星フォトコンテスト 入賞作品展（11/8-12/4）」共催依頼があり承諾した。

・令和7年度石油技術協会秋季講演会（11/6）への協賛依頼があり、承諾した。なお、協力内容は『後援』に相当するが、申請内容の通り協賛として承諾した。

・第67回藤原賞受賞候補者推薦依頼があつた（学会締切12/1）

・山田科学振興財団より2026年度研究援助候補推薦依頼があつた（学会締切2026/2/6）。地質学会推薦枠3件。

・大日本ダイヤコンサルタント（株）より役員変更のご連絡があつた。（代表取締役社長：原田政彦氏（留任）、副社長：齊藤哲郎氏（昇任）他）

<会員>

1. 今月の入会者：賛助会員1社、ジュニア会員1名、正会員4名（一般2、学生2）

賛助会員：東海窯業原料株式会社

ジュニア会員：畠田寛人

正会員一般：辻林恭祐、渡辺憲彦※紹介者なし。

正会員学生（単年度1名、3年パック1名）白井完多、板橋幸助

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：3名

名誉会員（1）石崎国熙（逝去日：2025年10月4日）

正会員シニア（2）藤吉 瞭（逝去日：2025年5月12日）、原田正史（：2025年9月22日）

4. 2025年9月末会員数

賛助：40、名譽：33、ジュニア会員：7、正会員：3150〔内訳 一般1974、シニア885、学生会員291〕 合計 3230（昨年比-2）

<会計>

特になし

<その他>

・フィールドノート3000部を増刷し、販売を再開した（定価1200円（会員価格900円））。別途料金で名入れも可能。2026年3月末まで再販記念キャンペーンとして会員・非会員ともに800円で販売する。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口・内尾）

・ホームページリニューアルについて、今年度末の完成に向け業者と打合せを進めている。

・Xのフォロワー数は3800名を超えた。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2025熊本大会：講演数は519件（山形大会とほぼ同数）。学生優秀発表賞は42件が決定した。巡査は8コース中7コースが実施された。

・今回に限ったことではないが、巡査案内書の公開が大会当日まで間に合わないケースが少なくないことは問題であり、改善に向けての具体策を検討する必要がある。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

3) 国際交流委員会（辻森）

特になし

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5) 学術戦略WG（尾上）

特になし

6) ショートコースWG（山口）

特になし

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

・編集状況報告（2025年10月15日現在）

2025年投稿論文：37（昨年比-10）〔内訳〕総説1（和文1）、論説18（和文16、英文2）、報告4（和文3、英文1）、レター2（和文2）、ノート4（和文4）、フォト1（和文1）、巡査案内書7

査読中24、受理済み6、入稿・校正中8、公開22

・新規特集号の申し込みがあった。タイトル「三浦半島北東部の上総層群下部（フェニおよびオルドバイ正磁極亜帯層準）の層序と古生物」（世話人：間嶋隆一（放送大）、野崎 篤（平塚市博）、中谷は崇（産総研）、瀬戸大暉（山形県博））担当編集委員等を割り当て、まもなく投稿開始予定。

2. Island Arc編集委員会（辻森）

編集事務局からはAssociate Editor増員の要望が挙がっている。

3. 企画出版委員会（小宮）

・（株）宝島社より『やばすぎ古生物図鑑』（日本地質学会監修、2019年発行、173ページ）の一部を利用した（合本）、新たに出版物『大絶滅！きえたいきもの図鑑』の作成が予定されている。監修者に対して校正依頼があり、現在校正作業中。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

・熊本大会ジュニアセッション優秀賞1件、奨励賞4件が決定した。

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

・熊本大会の地質系業界説明会では、40の企業・団体が参加し、98名の学生の参加があった（各企業ブースへの延べ訪問数は255）。

・地質系若者のためのキャリアビジョン誌2025の原稿募集、広報を開始した（12/19締切）

3) 生涯教育委員会（矢部）

特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）

特になし

5) 地質の日（矢部）

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（亀高）

特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）

特になし

3) 表彰制度検討WG（亀高）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし

3) 支部長連絡会議（杉田）

・9/15に支部長連絡会議が開催された。大会開催の折には、可能な限り経費削減に努めて欲しい旨を伝えた。会議では代議員の定数見直しの要望があった。また、シニア会員に対する取り組みについて、様々な意見や要望があった（例：人材バンク、巡査での学生への指導、現在消失した露頭情報の提供など）。

4) 地質災害委員会（松田）

特になし

5) 名誉会員推薦委員会（星）

・2026年度の階層別委員及び理事会代表委員について、来月の執行理事会で報告し、12月理事会へ上程する。

6) 各賞選考委員会（亀高）

・9/6理事会後の打合せで、本年度の委員長を道林克禎理事に決定した。

・2026年度各賞候補者の募集を開始した。応募締切は12月1日（月）必着。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）

特になし

8) 法務委員会（亀高）

特になし

9) 若手活動運営委員会（星）

・若手巡査 in 長瀬・皆野地域（10/18実施）は定員26名に対し、24名参加申込があった。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）

特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし

審議事項

特になし

監事コメント

（山本監事）巡査は大会の主要イベントの一つであり、案内書の公開が大会当日に間に合っていないことはよくない。巡査案内者に会長から委嘱状を出すことで、当人の責任感が増し、提出遅延防止に多少つながるかもしれない。

（岩部監事）巡査案内書は大会までに間に合わせてほしい。案内者にそのことをしっかり理解してもらえる様、繰り返し働きかけでもらいたい。巡査時には、ヘルメット着用を徹底するよう、学会からも案内者にしっかり説明してもらうのが良い。

以上

2025年11月19日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）山路 敦

署名人 執行理事 亀高正男